

(様式2)

社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名 (ふりがな)	江尻桂子 (えじりけいこ) 清水由紀 (しみずゆき)	所属	茨城キリスト教大学 (江尻) 埼玉大学 (清水)
研究集会等名称	社団法人日本心理学会 発達心理学基礎研究検討会 [通称:土曜研]		
成果概要	<p>1) 参加人数 会員 60名 (うち認定心理士 5名) 非会員 20名 (うち認定心理士 5名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等</p> <p>①目的</p> <ul style="list-style-type: none">・本研究会では、発達心理学研究の中でも、特に実証的研究、データに基づく実験・観察・調査研究に重点をおき、これらに従事する第一線の若手研究者をゲストにむかえた。そして最新の研究成果発表をもとに、参加者を交えた活発な議論を行った。・ホームページを開設し、これまでの開催概要および今後の開催予定について掲示している。 http://doyou.kt.fc2.com/index.html <p>②成果: 2009年度は4回の研究会を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 第14回 2009年5月16日 永盛 善博 (早稲田大学) 「空気が関与する運動現象に対する因果的説明様式の発達:説明と知識の関係に焦点を当てて」 武居 渡 (金沢大学) 「聞こえない子どもの言語を評価する一手話評価テストの開発と日本語力の測定」・ 第15回 2009年8月26日 住吉 チカ (福島大学) 「発達障害児における言語発達と高次認知機能の関連: 全称量化表現の理解・語流暢性課題による検討」 垣花 真一郎 (郡山女子大学) 「かなの読み習得における濁点規則、拗音の混成規則の利用」・ 第16回 2009年11月28日 佐治 伸郎・今井 むつみ (慶應義塾大学) 「語意獲得とは何を意味するのか: 即時マッピングと意味の再編成」・ 第17回 2010年3月13日 林 創 (岡山大学) 「子どもの作為と不作為に関する認識とその発達」 森口 佑介 (上越教育大学) 「幼児を対象にした発達認知神経科学研究: 現状と展望」 <p>③将来の計画</p> <p>これまでと同様、年に2~4回の頻度で定期的に研究会を開催してゆく。研究会の開催スタイルとしては新進気鋭の研究者をゲストスピーカーに迎え、最新の研究成果について発表いただき、これをもとに参加者らで議論を行ってゆく。研究会の将来目標は次の二点である。①異なる研究機関に所属する研究者同士の交流の増進を図るとともに、研究者間・研究機関間のネットワーク形成および学術情報の共有の場を提供する。②研究会活動を通して、日本の発達心理学研究における若手研究者の支援と交流の活性化を目指す。</p>		